

# 保険データハブ クイックスタートガイド

データドリブンの変革を加速

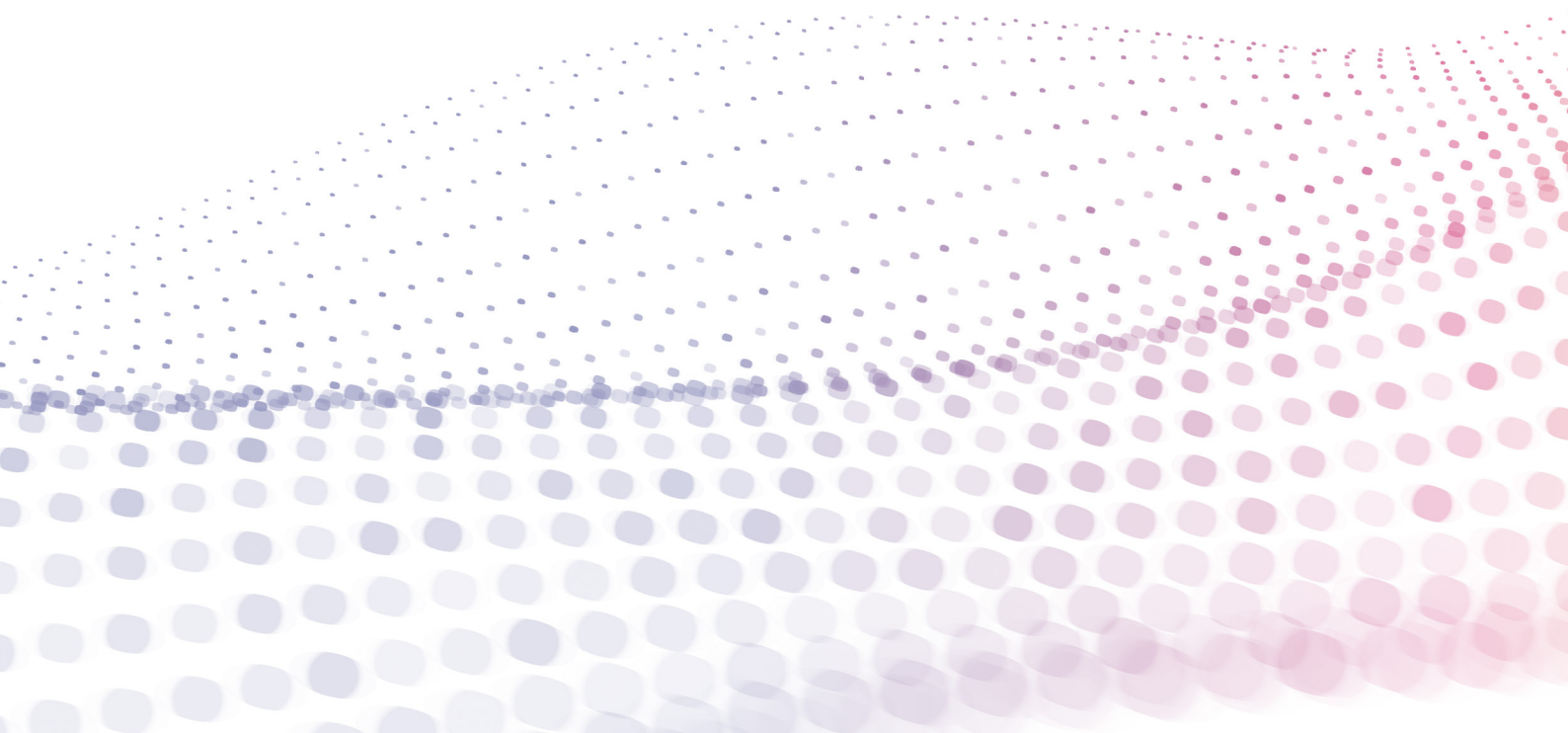
---

クイックスタートガイド ・ 2019 年 3 月

---

「データを活用している時間よりもデータの扱いに苦労している時間のほうが長い」というのはよくある話です。通常、IT 部門の予算の 60 パーセントは、エンタープライズデータの統合（ハードウェアの購入、ソフトウェアスタックの拡張、面倒な保守）に費やされています。

MarkLogic の保険データハブサービスは、データ統合をシンプルにします。これはクラウド上のサービスであり、読み込み、キュレーション、統合済みデータの提供を行います。MarkLogic は、保険会社がクラウドにデータハブを初めて導入する際に迅速、簡単に行えるようお手伝いして、エンタープライズデータの 360 度ビューを利用するメリットを実現します。



# 概要

このガイドではMarkLogic 保険データハブ(IDH)を使用してわずか45日でデータドリブンの変革を開始できるように、大まかな計画とツールについて説明します。パート1では、なぜMarkLogic IDHが保険会社のデジタルトランスフォーメーションを実行するうえで効果的なプラットフォームなのかを探ります。パート2では、保険会社がデジタルトランスフォーメーションに移行するための45日クイックスタートの計画を提示します。

## パート1: 保険エンタープライズデータのニーズに対応

保険会社は、業界の急速な変化に遅れないためのデジタルトランスフォーメーションを必要としています。保険会社にとって、デジタルトランスフォーメーションはいくつかの分野、特にカスタマーエンゲージメントの向上、保険金請求処理の自動化、アンダーライティングの精度向上において、メリットがあります。

MarkLogic IDHは、サイロの排除、エンタープライズデータの統合、コンテンツの再利用を可能にし、効率的なコンテンツ制作と提供を促進します。データハブを採用するとエンタープライズデータの360度ビューが得られます。MarkLogicを利用されている保険会社は、アプリケーション構築の高速化、ビジネスインサイトの向上、業務の効率化を目的として、データハブを使用しています。

MarkLogicは、オンプレミスに展開することも、クラウドを使用したサービスとして利用することもできます。MarkLogic IDHは、読み込み、キュレーション、統合済みデータの提供を行うクラウド上のサービスを使用して、デジタルトランスフォーメーションの実行をシンプルにします。データハブをクラウド上で簡単に開始できるよう、MarkLogicがお手伝いします。

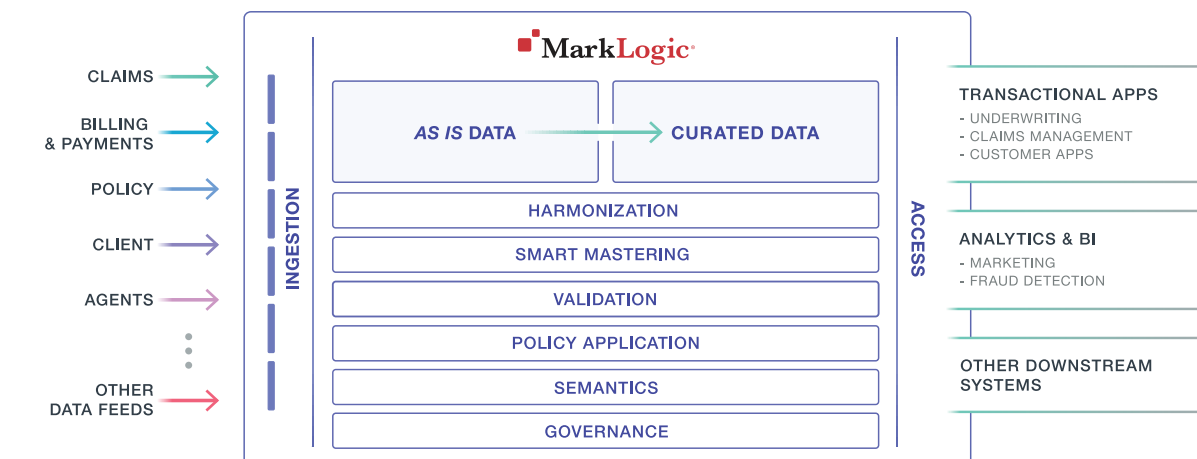
## デジタルトランスフォーメーションにはデータへのアクセスが必要

デジタルトランスフォーメーションに必要なデータすべてにアクセスすることは、ほとんどの保険会社にとって課題となっています。ITインフラストラクチャにはサイロ化する特性があり、内部および外部両方のデータソースを簡単に統合できないためです。保険金請求とアンダーライティングに非構造化データソースを使用することの重要性は増えています。データソースが統合されれば、保険会社は新しい分析機能を開発し販売チャンネルに提供できます。お客様は、よりパーソナライズされかつ統合された保険商品とサービスを必要としています。

商品やサービスのデータにアクセス、及び使用できない背景には、多くの場合上流での最適ではないデータ統合プロセスに原因があります。オンプレミスおよびクラウドを使用したMarkLogic IDHは、サイロ可されたデータを最も効果的な方法で統合します。

「MarkLogicのアジリティ、統合された検索、エンタープライズ機能によって、最も要求の高いお客様にも世界規模で対応できます。結果として、カスタマーエクスペリエンスならびにお客様自身によるリスクプロファイルの最適化が大幅に改善されました」

Jens Blohm 氏、ハノーバー再保険、生命保険ビジネスグループ COO



## MarkLogic IDHソリューション 保険会社向け基礎データ管理プラットフォーム

MarkLogic は、保険ライフサイクル全体を通じたデータハブによって、次世代の商品とサービスを創造するリアルタイムのエンタープライズ仕様プラットフォームを提供し、デジタルトランスフォーメーションのニーズに応えます。このデータハブは、すべてのデータ、コンテンツ、メタデータ真のシングルソースであり、既存および将来のアプリケーションで利用できる重要情報の信頼できるデータソースとなります。

基礎データ管理プラットフォームである MarkLogic の IDH は、旧来のリレーショナルデータベースの 1/5 の時間かつ低コストで保険会社に統合されたデータの全体像（360 度ビュー）を提供します。

- MarkLogic は他のデータベースとは異なり、マルチモデルデータベースであるため、ほぼすべての形式のデータをモデリングや変換なしで処理します。データはそのままの形式ですぐに利用できます。
- その後、データはキュレーションされ、ハーモナイズされた安全な 360 度ビューが作成されます。この処理は反復的で、リアルタイムに実行され、データからすぐに価値を引き出せます。
- MarkLogic では、さまざまな業界標準 API が標準装備されており、トランザクションおよび分析両方のユースケースに関するデータ提供に活用できます。

「開発時間は数時間～数週間まで短縮され、数週間～数か月を要することはなくなりました」

Brian Novacek 氏、エリー・インシュランス、シニアソリューションエンジニア

## データレイクの柔軟さとハブのガバナンスを併せ持つ

データレイクのような他のアプローチでも、多数のソースからの分断されたデータを格納できますが、そこにはガバナンスもインデックスもなく、リアルタイムでもありません。これとは対照的に、MarkLogic IDH ソリューションにはすべてが揃っています。

- データのガバナンス：セキュリティと時間の経過に伴うトラッキングポリシーにより、データのトラッキングと安全を確保します。
- インデックスが付けられたデータ：構造化データ、非構造化テキスト、地理情報データ、グラフ、セマンティックデータ、バイナリのメタデータを対象とした複雑なクエリが可能です。
- リアルタイムのデータ：この環境では、データを読み込みながら同時に毎秒数千件の API リクエストを処理できます。
- データの拡張：迅速、透過的、自動的な拡張と縮退により、変動するワークロードに対応します。

---

## クラウドトランスフォーメーションはデジタルトランスフォーメーション戦略の一部

MarkLogic を完全に自動化されたクラウドサービスとしてデプロイする場合、いかなる運用負荷無しに IDH を使用可能です。このサービスは、これまでオンプレミスで提供してきた成熟した MarkLogic データハブソリューションに基づくものです。これはデータを統合しキュレーションするためのアジャイルなプラットフォームで、データガバナンスとセキュリティも確保されています。完全に自動化されたクラウドサービスであるため、インフラの購入や管理が不要で、労力をかけずに利用できます。

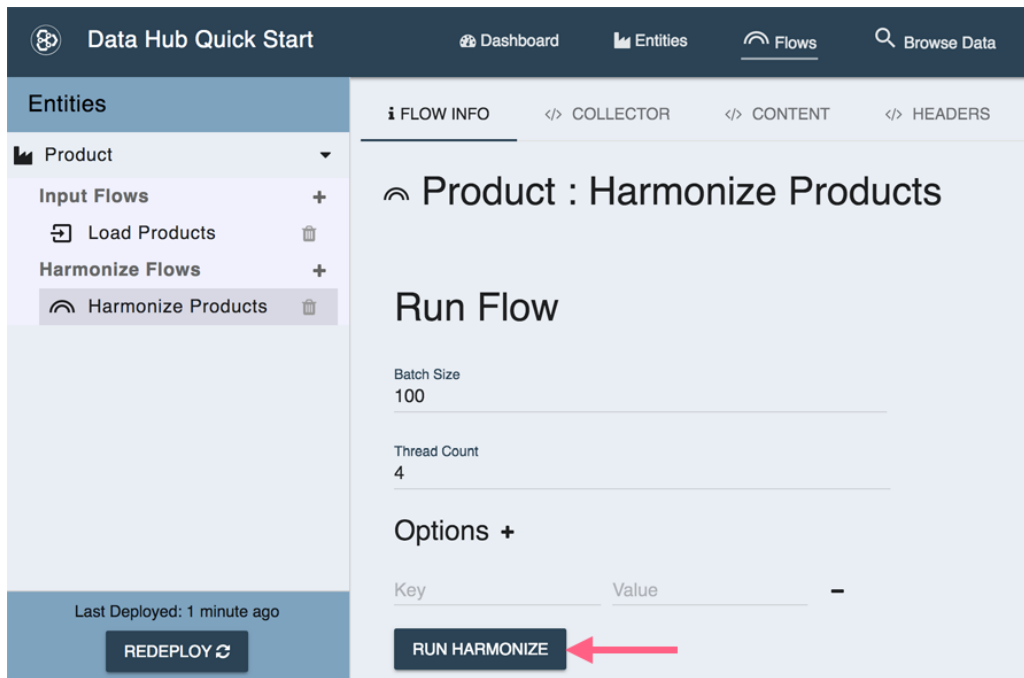
MarkLogic IDH は、単なる DBaaS (Database as a Service) ではありません。DBaaS と同じ運用上のメリットをすべて享受できますが、これはデータベース単体ではありません。このサービスは完全に構成済みの強力なデータハブであり、もっと多くのことをより短期間で実現できます。

ワークロードは分単位で変化するかもしれませんが、予算は変わりません。クラウドを使用する MarkLogic IDH サービスは、データ需要の変動に自動対応します。作業量が変化すると数秒で、クラウド上のコンピュート(演算処理)リソースの追加や削除を透過的に行います。このためデータ処理の過小 / 過大なプロビジョニングがなくなります。

---

## MarkLogic 保険データハブサービスの中身

IDH サービスには、MarkLogic がデータ統合をシンプルにすることに関して 10 年以上培ってきた技術と経験が集約されています。MarkLogic が提供するものの中核にはすべて、データベース製品 MarkLogic Server があり、成熟したデータハブフレームワークもこの製品に基づいています。そしてこのフレームワークは MarkLogic によるオンプレミスでの「データサイロの統合」で使用されてきました。これこそが MarkLogic のコアビジネスであり、何百社もの企業ユーザー (巨大なミッションクリティカルシステムなど) におけるベストプラクティスや新しいアイデアなどが反映されています。基となるデータハブフレームワークに慣れていれば、IDH サービスの実行、設定、コード拡張 GUI にも馴染みがあるでしょう。



これは、データハブフレームワークの画面です。左側にさまざまなエンティティのフローが整理されており、右側に作業、ジョブトラッキングと変換ステップの管理があります。

これは、データハブフレームワークの画面です。左側にさまざまなエンティティのフローが整理されており、右側に作業、ジョブトラッキングと変換ステップの管理があります。

このデータハブフレームワークによる今回のクラウドサービスは、チームの組織化と生産性維持のため、データをビジネス「エンティティ」を軸にして整理し、プロセスを「データフロー」に分けます。また MarkLogic IDH サービスは、バッチ処理、リアルタイムの読み込み、出力 API もサポートしています。オンプレミスのデータハブと違って、このクラウドサービスは一般的な DevOps プロセスを引き受けます。これにはコンピュート（演算処理能力）のプロビジョニングや自動拡張などが含まれます。

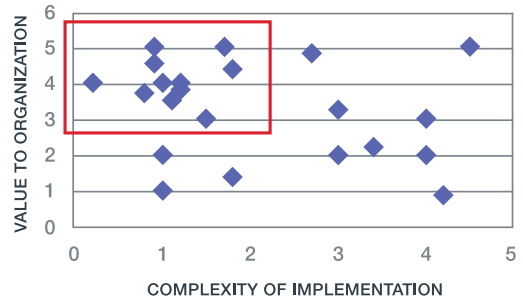
# パート2: 45日間で保険データハブを稼働

MarkLogic コンサルティングでは、お客さまのデータ統合プロジェクトを促進するための、45 日間の「クイックスタート」を提供しています。クイックスタートは、次の 4 つのステップで構成されています。

## 1. 価値の高いデータとサービスの特定

クイックスタートでは、お客さまの組織における本当のニーズを満たすデータソースとサービスを特定するためのサポートをします。図で赤い四角に囲まれている部分が、この高価値かつ低コストのサービスのセットです。

「すぐ結果が出る」ものに集中することで、IDH サービスのアプローチの妥当性をすぐに確認し、関係者に迅速にフィードバックできます。関係者が求める最も重要なサービスを特定することで、スケジュールどおりに進行するために何を優先すべきかが分かります。



クイックスタートによる技術検証とチームに対するトレーニングが完了したら、次の反復サイクルでは、その他のサービス、エクスポート、データソースをデータハブに導入します。

## 2. 最初のデータサービスの対象確定と計画立案

ステップ 1 で重要なサービスを確認したあとは、このサービスに必要なインプットが含まれるデータソースを遡って特定します。そこから、そのデータ（＝原料）を本番のデータサービス（＝完成品）で利用できる形にするために必要なデータクレンジング、キュレーション、変換、マスタリングの処理を決定します。さらにこのプランニングはデータセットに含まれる個人特定情報 (PII, Personally Identifiable Information) を特定します。

私たちはユースケース（利用方法）に合わせまた、お客さまの既存の技術環境と組み合わせて、知識と経験に基づいて戦略を立てます。

## 3. 「分割して征服せよ」

IDH サービスでは、ツールキットを使って極めて困難なタスクを「エンティティ」と「データフロー」に分解します。これによりデータ入力とデータサービス出力が、エンティティとフローに整理されている個別のタスクに分解されます。各エンティティは、必要とされるサービスで利用できるように、細かく定義された複数のステップを進んでキュレーションされます。

このリストには「綿密なデータモデリング」がないことがわかります。ここではとりあえずサービスが使えるだけの、最小限かつアジャイルな「ジャストインタイム」のモデリングを行っています。アジャイルなプロセスなので、これらのモデルをあとから改良したり拡張したりできますが、ほとんどのデータは、「そのまま」格納、クエリ、変換されます（ビジネスのニーズに応じて異なります）。最初にすべてのデータを「そのまま」取り込み、その後成長させます。アジャイルモデリングは、時間を節約し、リスクを低減します。

## 4. エンティティフローを一連のプラグインとして実装

最初の 3 ステップが終わった時点で、主要な要件が判明し、作業が分割されてデータフローに割り当てられています。次に、このデータフローのプランニングとスケジュールを作成し、実装チーム内での作業の分担を決めます。



IDH クラウドサービスが提供するこのクイックスタートソリューションは、いわゆる「ターンキーソリューション」です。つまりハードウェアのプロビジョニング、インストール権限の取得、OS やネットワークの設定が不要です。すぐに始動でき、即座に結果が出るので関係者も驚くでしょう。

通常は、MarkLogic のコンサルティングが最初の 45 日間の作業を主導します。その際、お客様側のスタッフも参加し、「オンザジョブトレーニング」として作業内容を学べるようにします。こうすることで、彼らが将来の開発プロジェクトを引継ぐための準備ができます。

クラウドサービスが適さない場合でも、MarkLogic はあらゆる環境（オンプレミス、ハイブリッド、パブリッククラウド）で利用できます。いずれの導入形式の場合でも、実績ある MarkLogic のエンタープライズ機能をご利用いただけます。また MarkLogic のコンサルタントがお客さまをサポートいたします。

---

## MarkLogicのコンサルティングを選ぶ理由

MarkLogic のコンサルティングサービスチームは、連日データ統合に取り組んでいるエキスパート集団です。世界中の大規模で複雑な保険会社に共通する課題とその解決策に関するインサイトがあります。変更データの捕捉、DevOps、チーム構成、クラウドへの移行、パフォーマンスチューニングなどに関して、MarkLogic のコンサルティングチームは、お客さまの計画を推進し、成功に導くのに必要な経験とメソドロジーを持っています。

システムを短期間で稼働させるだけでなく、お客さまのチームが必要とするスキルのトレーニングも行います。たとえデータとシステムのプロフェッショナルが集まった最高のチームであっても、アジャイルな MarkLogic の新しいアプローチになじむには少し時間がかかります。MarkLogic のアプローチでは、事前のモデリングなしでデータを読み込み、データ統合作業全体をアジャイルに行い、「データファースト」の（およびモデリングに注力した）統合からデータサービスベースの開発にシフトするからです。

経験がないチームがこれらすべてを自分たちで考え抜き、新たなパラダイムを受け入れるだけでなく、そのうえ素晴らしいシステムを 45 日間で開発することはできないでしょう。

MarkLogic コンサルティングは、個人また組織として過去のプロジェクトから得たスキルとベストプラクティスで、お客さまのプロジェクト推進をお手伝いします。

## お問い合わせ

詳細および「IDH クイックスタート」でデータドリブンのデジタルトランスフォーメーションを全社的に促進する方法については、[consulting@marklogic.com](mailto:consulting@marklogic.com) にお問い合わせください。

---

© 2019 MARKLOGIC CORPORATION. ALL RIGHTS RESERVED. このテクノロジーは、米国特許番号 7,127,469B2、米国特許番号 7,171,404B2、米国特許番号7,756,858 B2、米国特許番号7,962,474 B2で保護されています。MarkLogicは、米国およびその他の国におけるMarkLogic Corporationの商標または登録商標です。本書に記載されているその他の商標は、各企業の所有物です。

マークロジック株式会社 MARKLOGIC K.K.

150-0001 東京都渋谷区神宮前1-5-8 神宮前タワービルディング 13F  
03 4540 0337 | [jp.marklogic.com](http://jp.marklogic.com) | [MarkLogic-JP@marklogic.com](mailto:MarkLogic-JP@marklogic.com)



150-0001 東京都渋谷区神宮前1-5-8 神宮前タワービルディング 13F  
03 4540 0337

[jp.marklogic.com](http://jp.marklogic.com) | [MarkLogic-JP@marklogic.com](mailto:MarkLogic-JP@marklogic.com)